

麦の郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2026

こじか園／第二こじか園／はぐるま共同作業所／はぐるま共同作業所 和の社／はぐるま共同作業所 ラ・テール／妻の郷印刷／ソーシャルファームビネル／おぎビース／ソーシャルファームもぎたて／meglück(メグリュック)／六星舎／叶夢向／妻の郷 和歌山生活支援センター／妻の郷 紀の川生活支援センター／障害者就業・生活支援センター つれもて／くろしあ作業所／妻の郷訪問看護ステーション／妻の郷居住福祉事業所／ハートフルハウス 創／事務所／ゆめ・やりたいこと実現センター／ちいき暮らしサポートセンターわかやま／Rework支援センターANEW／妻の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美

発行／妻の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643

TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
<http://www.muginosato.jp>



こじか園
11月29日(土)お餅つき



第二こじか園 年長児
1月5日(月)竈山神社 初詣



くろしお作業所
1月5日(月)初詣・書初め(絵馬)

私たちのめざすもの～妻の郷4つの理念～

- 1).妻の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展をめざします。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践をめざします。
- 3).私たちは、社会的不利の状態にあかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).妻の郷は、全ての人が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



2026年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年中は、麦の郷のなかま達の生存・発達、麦の郷の運営の為にたくさんのご協力を頂き、心から感謝申しあげます。本年もかわらないご支援ご教示をお願い申し上げます。

麦の郷では、自然や人に気遣いのできる優しい子ども達やななかま達が、育っているようです。彼らの優しい言葉に時として涙が出そうになることがあります。

彼らの優しい言動は、教えてできるものではありません。それは、彼や彼女たちが、優しいななかまや実践者とあたりまえの生活（みんなが朝起き、朝食を食べ、元気に事業所や園にやってきて、笑顔でそこでの生活を送り、帰宅する「あたりまえの生活」）を送るなかで育ちます。

ななかま達や子ども達さらには保護者、職員が「ここに来て良かった」「麦の郷で働くことができ最高」と思える素敵な実践を今年も追求して参ります。その為には、既成（レディメイド）の福祉ではなく、創造性のある（オーダーメイドな）福祉への挑戦が必要です。その挑戦は、「やってくれることを待っている」のではなく「ともに創り上げる」なかでこそ可能になります。

皆様とともに、多様なニーズが実現される福祉実践や制度を創りあげ、ともにユニークな社会を築き上げる主体として2026年もしっかりと歩んで参りましょう。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。
(社会福祉法人一麦会・麦の郷理事長 山本 耕平)

麦の郷の年男&年女 今年の抱負



meeglück
貞包 朋子さん

今年は48になります。
健康に気をつけて、マイペースでポジティブな1年を送りたいです。

※写真は、ともさんの絵で作成したカレンダーです。



ソーシャルファームもぎたて
カフェ・風車
中澤 あかねさん

私は昭和41年丙午生まれ。60年に一度巡ってくる丙午（ひのえうま）は、気性が強いと言われますが、芯が強く行動力があるとも言われています。大病もなく元気に過ごせること、そして産んでくれた両親に心から感謝し、これからも健康に気をつけながら頑張っていきます。

麦の郷・職員交流研修

今年で3回目となる職員交流研修が、11月に実施されました。同じ法人にいても顔も名前も知らない職員がたくさんいます。そして、自分が勤めている事業所しか知らないという職員もいます。そのような状況の中で、この研修を実施する意義がある、と始まったのですが3回目ともなると各事業所の対応も慣れてきて、とてもスムーズに実施することが出来ました。

今回は、10人の職員が各事業所で2日間実習

お二人
還暦

くろしお作業所

山本 正治
(左)

くろしお作業所
山本 正治さん

くろしお作業所
宮脇 三和子さん

山本さん:けんこうにきをつけて、くろしおにがんばってきたいです。

宮脇さん:たくさん食べる！ケーキ1ホール食べたいなあ。

還暦

麦の郷本部

粉川 緑
(右)

麦の郷本部
粉川 緑さん

私らしい一年に

自分に正直な生き方を心掛けてワークライフバランスを整えたいです。仕事も私生活も無理をしそう、自分らしく過ごしていくのが目標です！仕事面では、学びを深め事務としてサポートに努め、私生活では運動する習慣をつけて健康を大切にする1年としたいです。

をしました。感想文を見てみると、「普段の事業所とは違う活動をする事が新鮮だった」「実践の内容を自分たちの実践にもフィードバックさせていきたい」など、前向きな感想が多かったと思います。

ただ、このままの交流研修で良いのか、課題もあると感じています。なので、今回はアンケート項目に意見・要望等の項目も入れてあり、生の声を聴かせてもらえたたらと思っています。

「他を知る」ことは私たち職員にとって更なる自己研鑽につながるのではないでしょか。

(麦の郷教育研修委員会 山本 哲士)



沖縄三線演奏会を楽しみました！

くろしあ作業所は保護者、障害者団体、関係者が中心となり、1977 年前身の「たつのこ共同作業所」からスタートして活動してきました。その後厚生省の認可を受け「たつのこ共同作業所」から「黒潮作業所」と改名し、1985 年 5 月に黒潮作業所として開所しました。

障害者自立支援法に伴い「くろしあ作業所」への改名もありましたが、2025 年に無事 40 周年を迎える事ができ、11 月 18 日に開所 40 周年のお祝い行事として沖縄三線演奏会を開催しました。以前から交流させていただいている沖縄民謡歌手である宮里祐樹さんと儀美紀乃さんをお迎えして、三線の音色、歌声、カチャーシーの踊りを披露していただきました。宮里さん、與儀さんとの出会いは 8 年前の沖縄へのなま旅行でライブをしていただけてから始まり、ずっと交流が続いている、いつかは『くろしあに来て演奏をしてほしい』となかまの強い思いから実現し願いが叶いました。当日、スタートの曲「安里屋ユンタ」から約 1 時間を超える(10 曲) 演奏会では最初から終わりまでなまたちは歌って、踊ってノリノリで、沖縄音楽で笑顔と元気をいただき楽しい沖縄時間を過ごす事ができました。

開催が決まってから当日までの準備で、歓迎や感謝の気持ちを伝える為に、なまのメッセージを書いた横断幕を作り、各班それぞれなまと話し合い、イメージづくりを行って感謝を込めプレゼントを贈りました。熱い歓迎に宮里さん、與儀さんも大変喜んでくれました。

きょうされん第 48 回全国大会 in 奈良に参加しました

今回の会場は 2020 年に完成したばかりの奈良県コンベンションセンターで開催されました。奈良市の中街に位置しており、収容数も 2000 人以上が可能という大会会場としては、とても壮観な印象を受けました。会場の中では、一年振りに会う方同士が所々で立ち話をしているお馴染みの風景も見受けられました。

私は「暮らし・居住」の分科会を選びました。この分科会は、人気も高く 100 名以上の参加者がいる大規模な分科会会場でございました。

分科会のレポートは広島県からは「もみじ福祉会」、京都府からは「あみの福祉会」の 2 本のレポート発表がありました。もみじ福祉会からのレポート内容で印象的だったのは、仲間の突然の死に直面して、当たり前の事ではあるが「人はいつか必ず死んでしまう」とこと



終わりの挨拶では、来年『私たちが沖縄へ行きます』となまの力強い宣言まで飛び出し、明日からの活力になった事は間違いないと思いました。短い時間でしたが沖縄音楽で心と心を繋げていただいた宮里さん、與儀さんに感謝します。そして沖縄三線に感謝します。

今回、くろしあ作業所が 40 年と長きにわたり続けられたのも先人たちが繋いでくれたおかげでこのような事ができた事に感謝し、今の私たちが今後未来へ繋げていく使命を担っていきたいと思います。

宮里さんが色紙に書いてくれた沖縄言葉
「いつぱーにふえーでーびる」=いっぱいありがとう
こちらこそありがとうございます。また逢える日を楽しみにしています。

(くろしあ作業所 田中 啓二)

を念頭に自分らしく生きるためのエンディングノート(事業所ではわたしノートと呼称)を作成し、続けたいことややってみたいことを実現していく取り組みでした。

あみの福祉会からは、当事者主体によるグループホーム建設のため、地域や企業と連携して食品や T シャツ販売による資金作りを実践されている報告がありました。どちらも特徴的なレポートであり、勉強になったことはもちろん、レポーターが仲間や事業所の活動を嬉しそうに、また誇らしげに報告しているところが印象に残りました。

来年の 49 回目は大阪での実施予定で、今から非常に楽しみといったところです。

(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)

避難訓練

10 月 29 日(水)



この日は、年に一度の山口小学校までの避難訓練。片道 2 キロ以上の道のりを親子で頑張って歩きました。ねらいは、大災害が起った場合に最終避難場所までの避難経路を保護者の方にも知っていただくことです。防災頭巾をかぶるように働きかけます。

(こじか園 浦上 武史)

クリスマス会



12 月 24 (水)、第二こじか園でクリスマス会がありました。年長児がクリスマスツリーに飾り付けをしたり、みんなでクリスマスソングを歌ったり「サンタさん、きてくれるかなー」と楽しみにしている様子でした。

した。当日はちょっとおめかして登園する子どもたち。今年のゲストは「ゆめ・やりたいこと実現センター」のウクレレサークルの皆さんでした。初めて見る「ウクレレ」に子どもたちも興味津々。目の前で演奏してくれる音に親子で楽しみました。子どもたちも楽器や手作り楽器で演奏したり歌ったりしていると…部屋の外からすずの音が！“メリークリスマス！”とサンタさんがプレゼントを持って来てくれました。一人ずつ嬉しそうにプレゼントを貰いにいく子どもたち。その目はキラキラしていました。また来年も来てくれるといいね！

(第二こじか園 吉村 加奈子)

* むぎ・わくわくレポート 27 *

共に学び、生きる共生社会コンファレンス ~学び合う そして 創り合う~
2025 年 12 月 22 日(月)
田辺市で初開催しました



ゆめやり和太鼓サークルの 6 名が個性を出し切って和太鼓を演奏。「涙が出るほど感動した！」と声があり、全員の熱い気持ちが伝わったようでした。2 部は、シンポジウムとワークショップを開催。障害のある人、行政関係者、一般参加者の約 50 名が生涯学習に対する気持ちを交換する有意義な時間になりました。



(ゆめ・やりたいこと実現センター 尾方 千春)



旅行・レク特集



ソーシャルファームピネル

10月25日(土)・26日(日)
岐阜



むぎピース

11月14日(金)
紀三井寺はやし



はぐるま共同作業所

10月31日(金)・11月1日(土)
淡路島



ハートフルハウス創

11月30日(日)・12月1日(月)
神戸周辺



はぐるま共同作業所 和の杜

11月14日(金)・15日(土)
愛知・岐阜



麦の郷印刷B型

10月10日(金)
神戸どうぶつ王国



叶夢向

10月17日(金)
京都



はぐるま共同作業所 ラ・テール

9月25日(木)～27日(土)
富山・岐阜方面



六星舎

10月17日(金)
USJ

自立訓練事業所の見学

10月14日に麦の郷生活支援部会で、社会福祉法人いこいの自立訓練事業所 you-me～ゆめ～へ見学に行ってきました。自立訓練では、様々な生活体験を積み重ね、生活力やコミュニケーション力、就労の為のプログラム等があり、自分が希望する生活を実現し、地域で生活していくために必要な経験を得る事が出来ます。利用期間は2年で、その後は一般就労や就労継続支援A型・B型、生活介護等、進路は多岐にわたります。

ゆめでは、日常生活安定プログラム、リフレッシュプログラム、自己理解についてのプログラム、

社会生活力アッププログラム、スキルアッププログラムがあり、集団活動や個別での活動等を行われてあり、その人その人にあった支援をされています。

支援学校を卒業後に、すぐに就労するのではなく、学びの機会を得る事で、支援学校で学んできたことに加えて更に将来の生活や就労について考える時間と力を養う機会となったり、また病気等で長期入院された方が、退院後に地域で自立した生活が送れるように、生活力や就労する力を身に付けるきっかけになる大切な学びの場であると感じました。

(麦の郷紀の川生活支援センター 神田 宗忠)

「銀行大好きです!!」はぐるま共同作業所のお仕事風景



はぐるまには3つの事業があり会計もそれぞれに行っているので会計担当さんのお仕事もたくさんあります。いつも一緒に銀行に行くチームで紀陽銀行さんに出かけては受付の方に「銀行大好きです！」とご挨拶したり、お話を聞いていただけたと和やかなひとときを過ごしています。銀行の方以外にも待ち合いで地域のみなさんと交流し、社会啓発も担うなどお二人のお仕事の役割はとても大きいです。この日はプレゼントした絵と一緒に宮北支店のみなさんと写真を撮らせていただきました。いつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

(はぐるま共同作業所 北山 郁子)

第25弾 障害者週間広がれネットワーク



きることを頑張させていただきました。みんなのねがいを語る会では、様々な立場から集まるからができる想い・願いの語り合いがあり、地域の課題も日常とは違う視点から見えて、大きな学びとなりました。広がれフェスタの舞台出演には、事業所や障害者団体とともに、地域の学生さんも舞台出演し、フィナーレでは、出演者みんなで舞台に立ち、童謡「虹」を手話で合唱しました。広がれネットワークでは、障害があってもなくても、共に過ごせる大切な場を作ることができたと感じました。

(麦の郷紀の川生活支援センター 竹原 育歩)



アサヒグループホールディングス社よりご寄付を賜りました

このたび、アサヒグループホールディングス社の社内表彰制度「AGP AWARDS」において、アサヒビール社「未来のレモンサワー」チームの受賞に伴い、当法人「ソーシャルファームもぎたて」を寄付先としてご選定いただき、50万円のご寄付を賜りました。心より厚く御礼申し上げます。

もぎたてでは、レモンを含む農産物の生産や農業支援に日々取り組んであります。これらの活動が、飲料・食品メーカーにとって重要な原材料の安定供給につながっています。

給に寄与する点をご評価いただき、今回の温かいご支援につながったとのことです。

皆さまからのご厚意は、利用者の働く場づくりや地域農業の持続可能性を支える取り組みをさらに前進させる力となります。

今回のご寄付に深く感謝申し上げるとともに、今後も地域とともに歩むソーシャルファームとして、より良い活動の実現に努めてまいります。

(ソーシャルファームもぎたて 中原 力哉)

陶芸用電気窯いただきました



紀の川市西元町集会所（名手市場）のかつての利用者であった住人のみなさんから陶芸用電気窯と、様々な道具類をmeeglückが譲り受けました。誠にありがとうございました。

譲り受けた電気窯と釉薬(器用の塗料)は住人の皆さんにお金を出し合って大切に共有して、使ってきました。このご縁は紀の川市の移住者で陶芸家の北迫さんからいただきました。今後は北迫さ

んにご指導いただきながら、みんなで陶芸活動に取り組む予定です。旧集会所にはたくさんの子どもや大人たちが、陶芸を通じて交流してきた積み重ねの歴史が見られました。その想いを受け継いで、麦の郷の仲間や地域のお子さん向にも体験講座などが開けるよう準備を進めています。乞うご期待ください。 (meglück 湯浅 雄偉)

入賞しました

第17回きょうされんグッズデザインコンクールで、麦の郷の事業所の3人、植村昌一さん（むぎピース）、矢野美優さん（麦の郷和歌山生活支援センター）、萱嶋ゆかりさん（くろしあ作業所）が入賞しました。

奈良で行われた全国大会で表彰式があり、2人が表彰式に出席しました。

大きな舞台、たくさんの人の前での表彰式で、とても緊張した面持ちの2人でしたが、表彰状を受け取った時は、誇らしげに見えました。

表彰式のあと、2人で記念撮影しました！写真は、緊張感から解き放たれて、リラックスした表情の2人です。



宣鳴 ゆかりさん(左)・矢野 美優さん(右)

第49回 障害児者家族のつながりを広める 文化祭

文化祭

2026年

3/1

10:00～15:00

和歌山県立体育馆

※和歌山市内に「夢想、大蔵、大澤、大瀬、大澤」のいずれかの看板が
表示されている、自然災害が発生した場合は中止となります。

テーマ

「つながる心」

「笑顔でつながる心の心

ここ

ワークショッププラット ワークさん

アントラ

和歌山県立紀北支援学校 高等部 2年 野上 あやさん

和歌山県立紀北支援学校 高等部 1年 田中 大空さん

和歌山県立紀北支援学校 高等部 3年 橋本 一絃さん

楽しい企画がいっぱい!!

- ・美しいステージショウ
- ・お福の忍者パフォーマンス
- ・和太鼓の演奏
- ・マスクパフォーマンス(100点)は
参加料金 300円 必要になります
- ・フリーステージ
- ・絆運動(和太鼓・バトントssp等)
- ・エンディング(つなぎ文句等) 1大台場

主催 第49回障害児者家族のつながりを広げる文化祭実行委員会

問い合わせ:NPO法人ひるるのワークショッププラット 和歌山市中央1794 TEL: 073-425-5838
E-mail: hiruru@nifty.com
HP: http://www.hiruru.com

後援 和歌山県立紀北支援学校・社会福祉法人和歌山県立障害者支援センター・和歌山市社会福祉協議会
協賛 和歌山県立紀北支援学校・社会福祉法人和歌山県立障害者支援センター・和歌山市社会福祉協議会
NHK 和歌山放送局・和歌山新聞社・和歌山日日新聞社・和歌山毎日新聞社・和歌山経済新聞社

協賛式子テレ・和歌山放送局・ユース前田・株式会社

株式会社テレ・和歌山放送局・ユース前田・株式会社

当日はイベントが盛りだくさん!

P 駐車場

駐車場に限りがあ
りますので公共交通
機器をご利用し
てお越しください

和歌山市立紀北支援学校・和歌山市立障害者支援センター・和歌山市社会福祉協議会

和歌山県立紀北支援学校・和歌山市立障害者支援センター・和歌山市社会福祉協議会

和歌山県立紀北支援学校・和歌山市立障害者支援センター・和歌山市社会福祉協議会

和歌山県立紀北支援学校・和歌山市立障害者支援センター・和歌山市社会福祉協議会

和歌山県立紀北支援学校・和歌山市立障害者支援センター・和歌山市社会福祉協議会